

竹 ノ 花



魚骨工造

成年向



なあオヤジ

どうしてこの竹を全部
切らなきゃならないんだ？

せっかく育てたのにさ



お前

竹の花が咲くのを
初めてか？

こいつは
「不吉」なんだぜ

不吉？

長年かけて
花を咲かせたはいいが

いっせいに
枯れちまいやがる

あとはな

それ

お前と家主様の仲が
良いのは分かるが

身の程をわきまえとけよ



お互い傷つくだけだぜ





花が咲けば、
あとは死ぬだけ



稗田家の女も

それと同じ

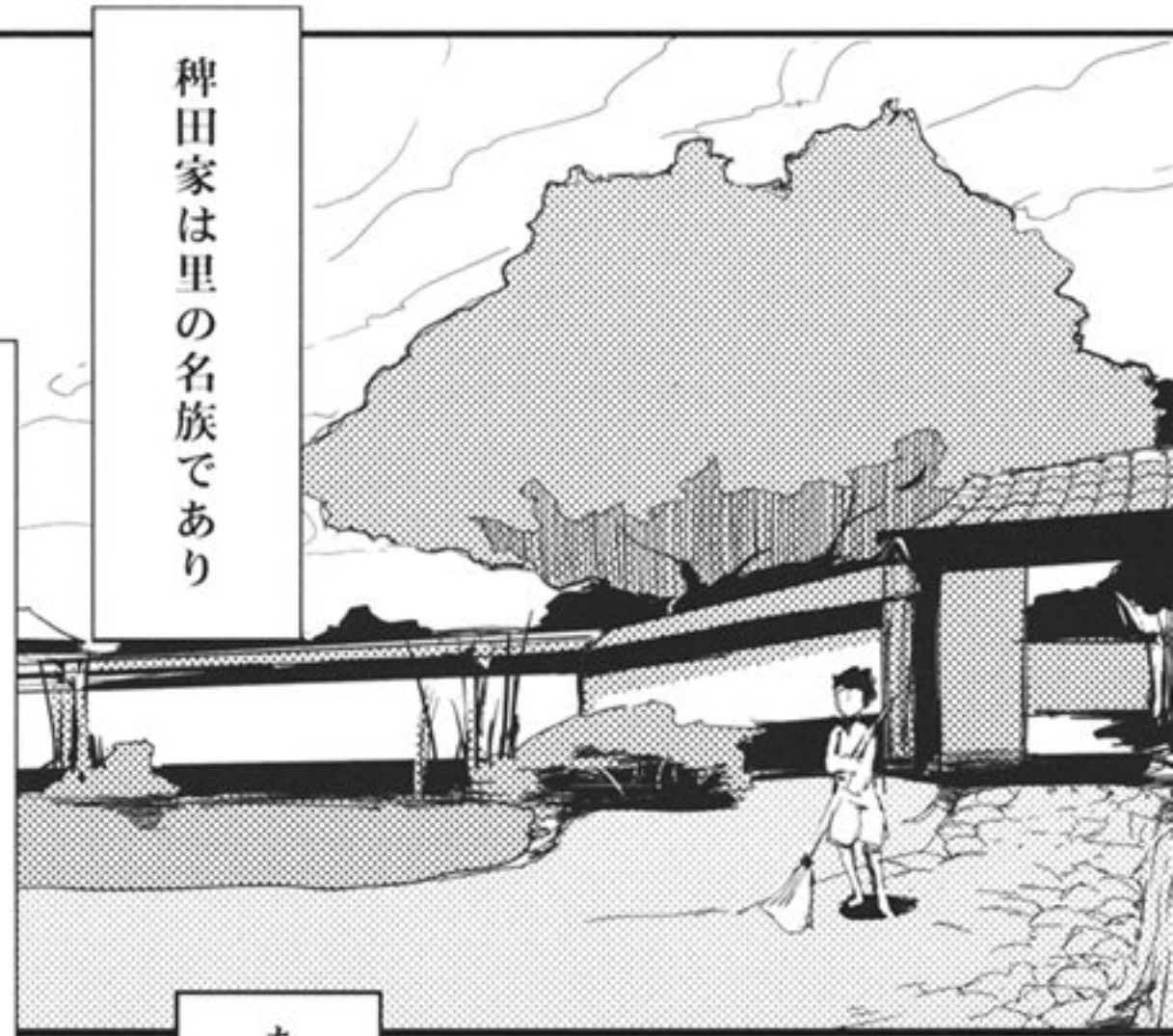


稗田阿七



幻想郷の歴史を代々
記録していると言われる

稗田家は里の名族であり



ただ奉公人は一人も置かず

家主様がまたどこぞへ
行かれたようだ

お前ちょっと
探してきてくれ

おう



毎年、
俺みたいな小間使いを
雇い入れるのだ

家主様を見かけた？

さあ



ないよ



そこは、
彼女と俺しか知らないところ



また

あそこかな…



おい

皆探しているぞ



見つかっちゃったわね

もう

下で見張っててくれる？

すぐ降りるから

心配しないで？
これくらい平気よ

お庭から出ずに
この里の景色が
見られるのはここだけ

どうやって登ったかの方が
気になる

靴、
降りるわよ？

え？

皆が一生命働いている

風も気持ちいい

待て！
私も降りるわよ
受けとめてね？





触るか！

さっきお尻
触ったでしょ？

うふふ



うわあ

よいしょ



私はね
死なんて恐れてないの

それでもないよ？

おい、
不吉な話はやめろよ



駄目になる

この体はもう



なんで？

これからもうこの木には
登れなくなる

恐らくね



私は

この幻想郷の歴史を
記録するためだけに

生まれてきた

死んでも
記憶はそのまま継承される

私にとって

転生は
古い体を捨てるだけの話

転生とか
よくわからないけど

今のお前はまた
生きているじゃないか

だったら
そのまま生きて行けよ



そうね



...

あのね

いろいろ

本当にありがとう









お願い
話を聞いて！

待ってください！

転生したら！
絶対！

絶対！

もう

もういいんだ

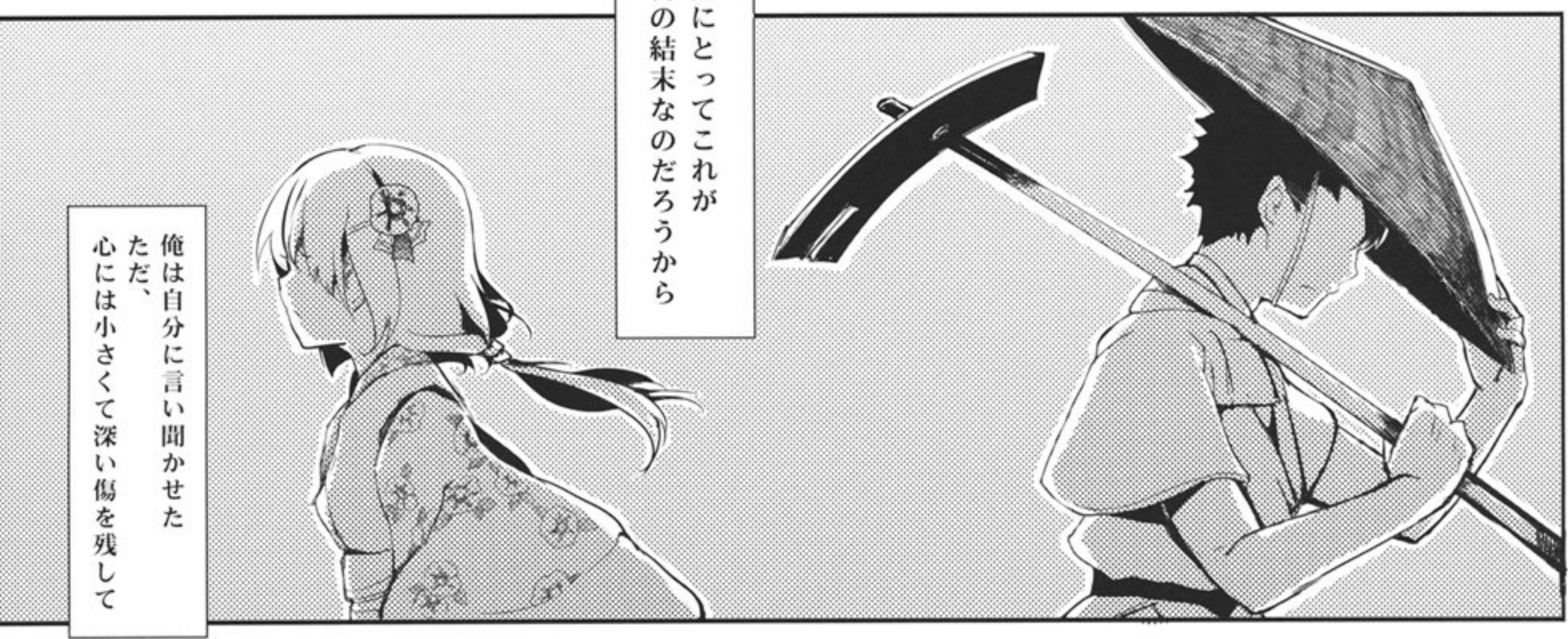
これでいいよ



お前に相應しい
幸せが見つかったんだよ

いや

羨ましいぜ



彼女にとってこれが
最善の結末なのだろうから

俺は自分に言い聞かせた
ただ、
心には小さくて深い傷を残して



癒されない
消えない傷痕がいつまでも疼く



稗田阿弥





仕上がるぜー
親方ー！

ぼっちりだぜ！

おう
終わったらさっさと
帰りやがれ

今夜は
冷えるぜえ！



おらガキ共！
危ないだろッ！



物が色褪せるには足らずとも
人が変わるには過分な歳月だ



十数年が経っていた



おう
一服してからな



親方
帰らないの？

見つけた!!!



てめえらー
早く帰れ!

子守りをやらなきゃなんねーからな

親方も大変だー

ねえねえ

ねえってば

あたしはもう大人だから

はいはい

もう結婚した?

あたしを
嫁にしてくれる?

...



わんわん



んもう!

人の話を聞いて!



来て来てー

このガキ

捕まえたら
かえるよー



返せよ

やだ

いやだ



この子は

今の家主様



あーあ
疲れちゃた

んもう女の子に
乱暴しちゃってさ

顔が変になって

嫁にいけなくなったら
どうするの！



うわあああ

痛い
痛い

らめれ

がえうお
がえうお



でもね

もう一度あなたと出会えて

よかった



バカ言うな

尿寝でもしようぜ



前世から

あなたが
好きだったから



もう

その冗談は
やめろって

本気だよ



おい

おい……

何やってんだ



見て見て

この体はこんなにも

軽くて元気だし

すべてはあなたと
もう一度出会うためのなの



やっぱり
わからないの？

私の顔



今の私はね

あなたと出会う為に
生まれてきたの



いきなり全裸に

刺かれちゃうなんて



恥ずかしいよう

緊張してる？

おっぱいの大きい子は

嫌なの？

バカ……



ぞぞ

ぞ



扉が閉まってないけど

大丈夫？

そのまま

扉を閉めに行く気か



いやだよ

見られても平気だもん



あなた
可愛いね



うーうんー

ちゅば
ちゅば



そんなに
硬くしないでよ
食べないから

ゆっくりして



記憶
消えろ

忘れろ!!

出して
ない!!

痛い!

やめろ!



さっきから
子犬みたいな声を
出しやがって



お
お前こそ!



んもう……

早くしないと
夜が明けちゃう

まだまだ

ゆる



おいおい無理するな
止めるよ



うあん……

う……

ああ!



ん……
あん……

やっぱりちょっと……



やだ!

……

ただ



私のすべてを

愛してる人に
捧げるつもりだったんだから

私ね
ずっと昔からこの体を

もみ

もみ



あたし嬉しいの



うん

あん
んっあ

あん
あん♡

あん♡
くすぐったい
んふ

ねえもっと
強くして

あん
たげん
たげん
だめ
そんなっ

ちゅぽ

ちゅみ

ちゅみ

ちゅみ

ちゅみ

ちゅみ

ちゅみ

ちゅみ

ちゅみ

ちゅみ

うん
感じるよう

大きくて熱いモノが
あたしを貫いて

あたしを貫いて
暴れてる

あん
♡

う

うあん

うあん

このまま

このままじゃ

初めてなのに
乱暴にされて

気持ちいいなんて
♡

え？

なにやって…

ニヤッ

ニヤッ





この感じ
イッちゃうから

もう
もうひやめええ

あん



ハッ♡

あたしの子宮に

あなたの子種を
一滴も余さず

赤ちゃんを孕ませて

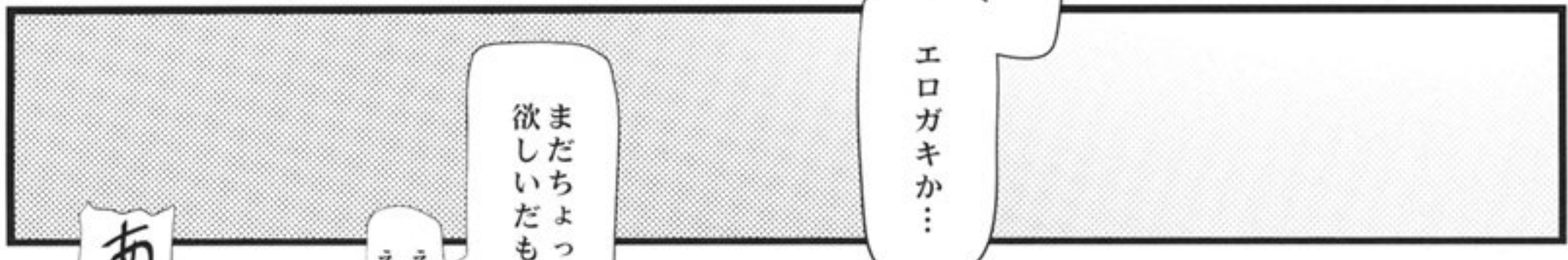
お願い!



おい
そろそろ俺…!

いいよ
全部出して

そして





芋？

毎日こんな食べてるの？

どうした？

焼けたら食えるぞ

おいしいよ

これじゃないってば

あなたって人は



そういえばさあ

大きい畑を買って、あたしを嫁にしてくれるって言ってたよね

もうすぐ…

なんとかするさ…

言ってみただけよ

あなたと一緒になら

どんな生活だって平気よ

おいしい？

甘い！

顔にっついてるわよ

や、やめろ



んじゃ

焼き芋食べてくれ新生活の前祝いだ

熱いよ

おう！いただきます！



こんなに
急に幸せになっちゃって

実感が全くわかないくらい



お
おいおい！

みんな見てるだろ！



親方！

熱いなー！

おめでたもすぐかもな！

まさか

あの親方が家主様とねえ

貫禄だな！

あははは…



行かなきゃ…だめ？



雨のせいで服が壊れたみたい

ああ

里の男たちは
行かなきゃいけない

恐らく

何ヶ月もかかるな



親方だから
しょうがないよ



荷物はもういい？

じゃ行くよ

ちゃんと女房と子供にも
挨拶したか？

戦争じゃあるまいし

待ってー！

待ってよー！

おい！
停めてくれ！

おう
おう



大雨だつてのに

ご飯ちゃんと食べて

汚い水飲まないで

寒くなったら服を着て

お酒飲まないで

他の女を見ないで！

あと



どうして
こんなところまで…
靴は？

薬！
この薬を持ってて！

あと、
あとね
ゆっくり喋れ

早く帰ってきて…

うん



どうしよう

あ...
行っちゃた

ハア

靴が

見つからない

体が重い



ただ彼を
愛しているだけなの！
うわああああ

あたしはただ



どうしよう

阿七
どうしよう



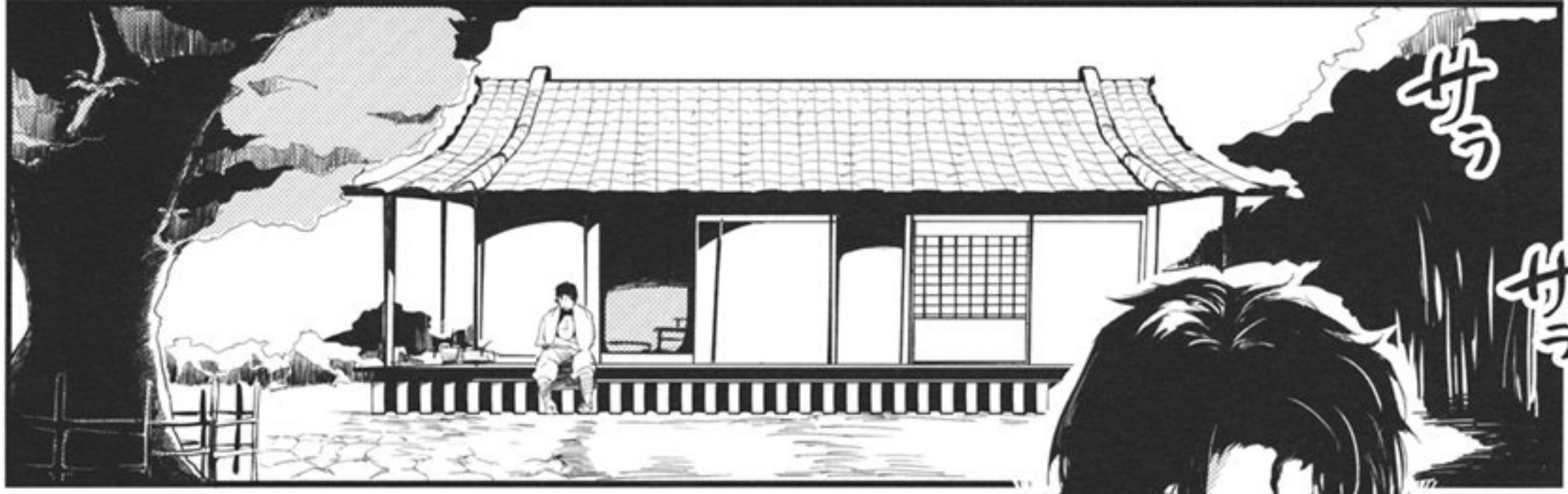
あれ

あたしはただ
彼と一緒に生きたい

一緒に
おじさんおばさんになって

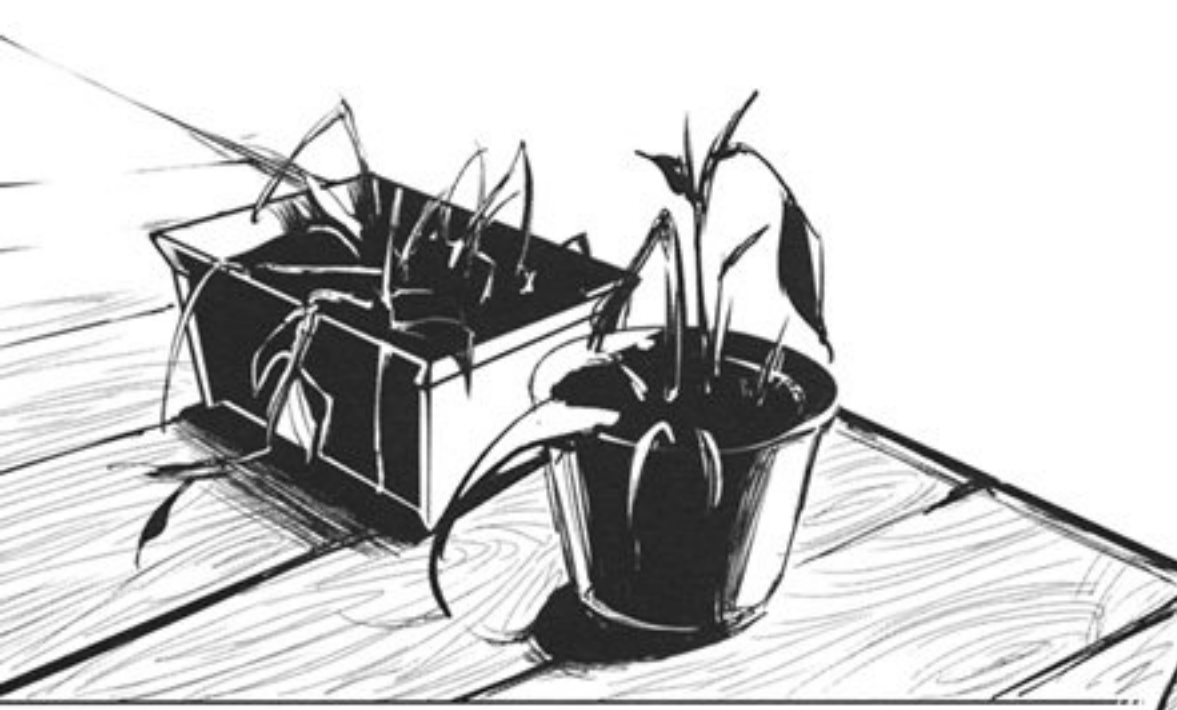
一緒にいたいだけ





サッ

サッ



赤ちゃん寝た？

うん、
さっき

静かに

すぐ寒くなるのに

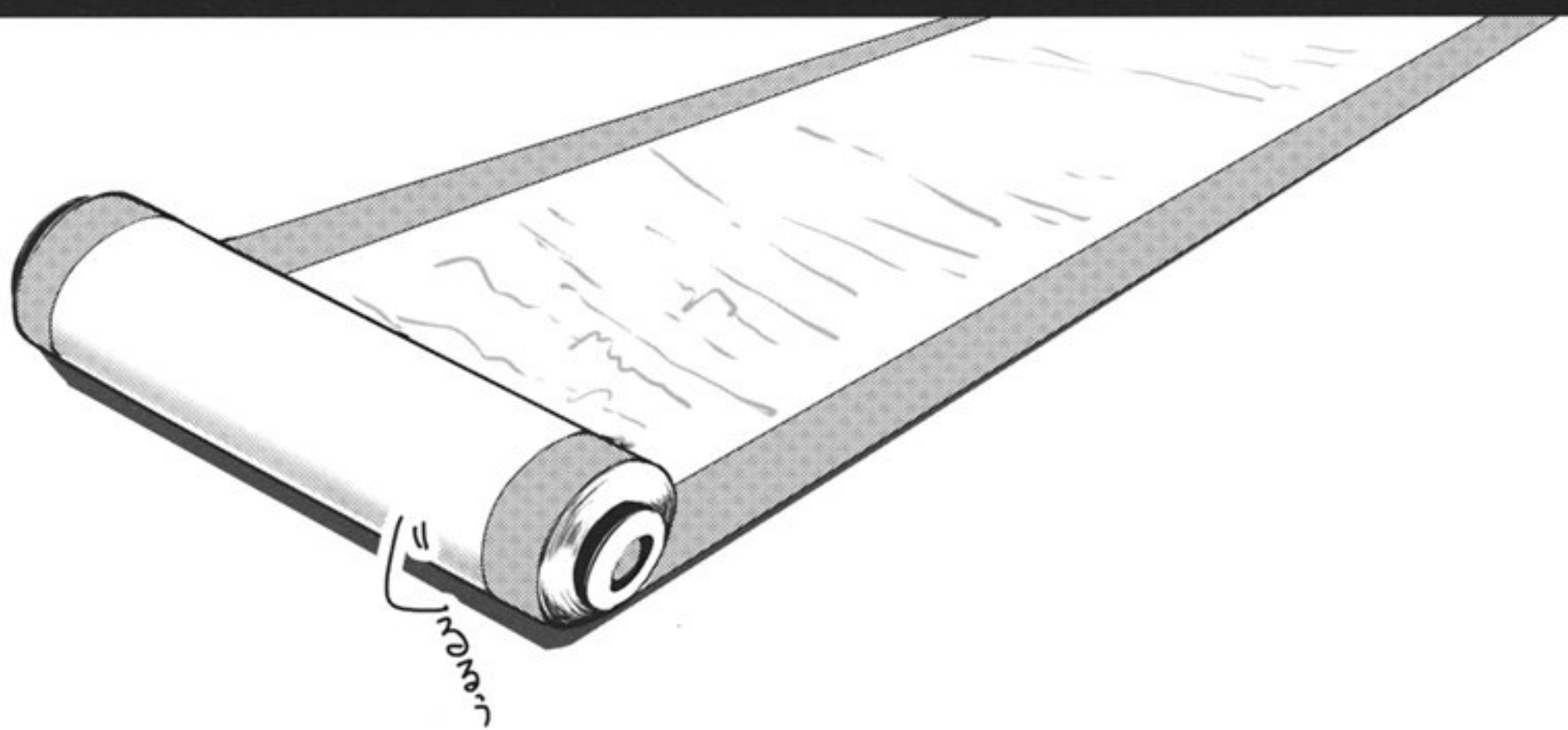
親方に：
どう言えばいい？

飲まず食わずで
座り込んだまま

三日目だよ

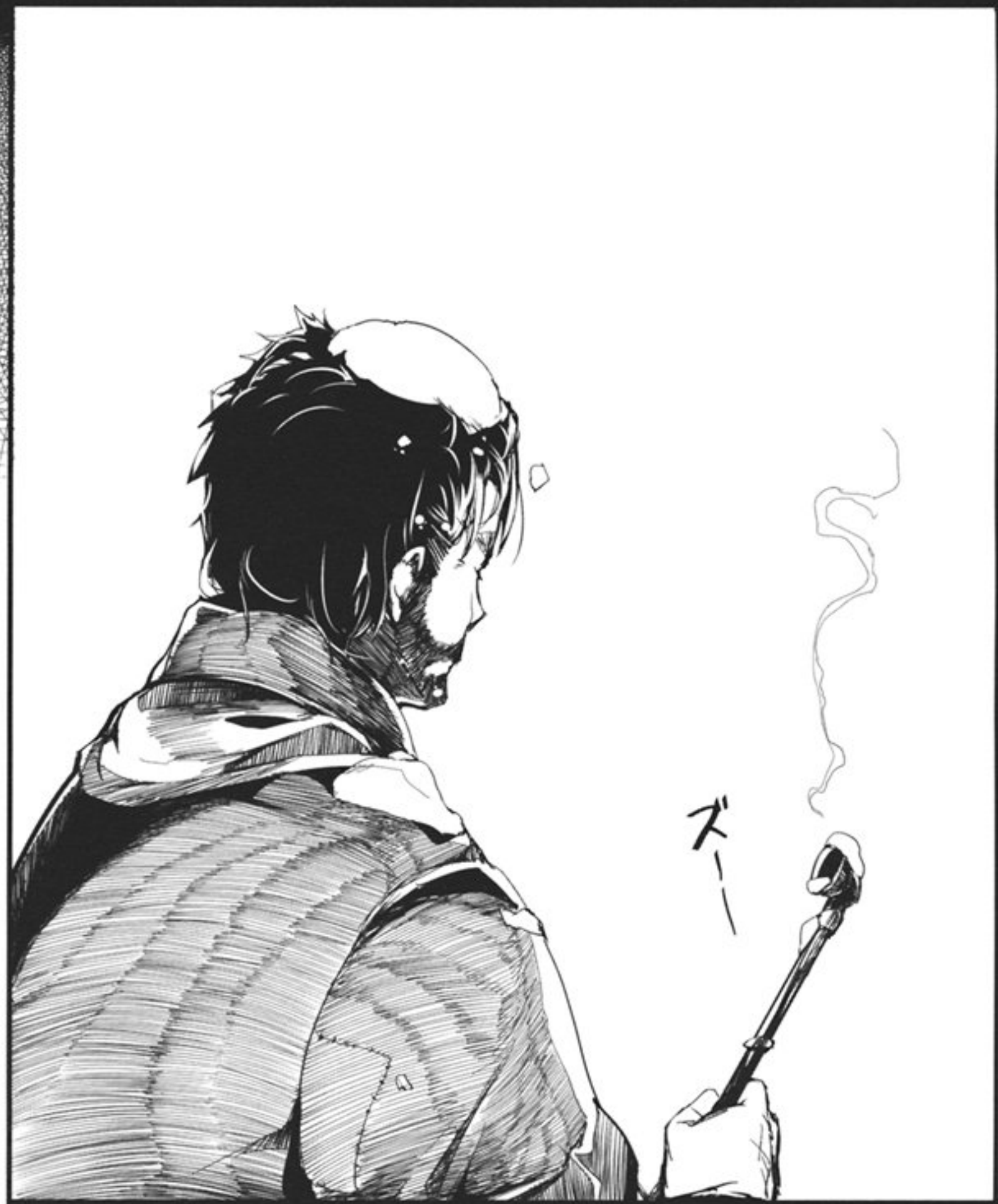
もう言ったよ…
返事もしない

家主様の最後を
見なかったからだよね…



稗田阿求







俺はただ運ぶだけでさ



いや
礼なら親方に
言ってくださいよ



お疲れ様でした

どうも
新米と野菜です

いつも世話になっております



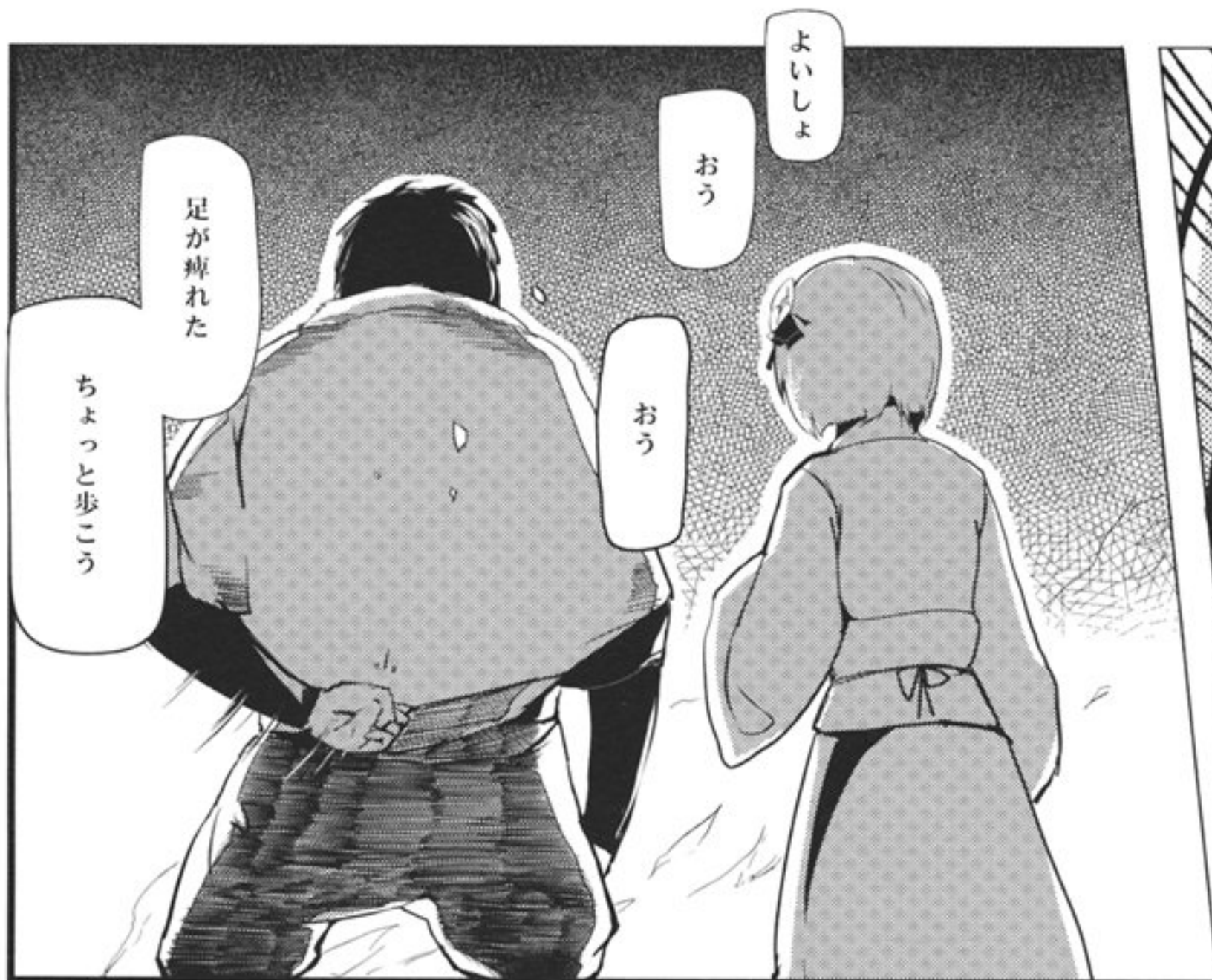
やっと

見つけた



やっと







ここは...



カ
カ



ここにはな

二人の女が眠っている

一人の女は

俺が愛した女

もう一人の女は
俺を愛した女



神田家先祖代々

ごめんなさい



お前の

せいじゃない

すべては...その巻物の...

そうじゃない



一人あなただけを
待たせてしまった

私は何度でも転生して
償います



大切な思い出

記憶

感情

喜びも
悲しみも

限りある
命ゆえに叶わぬ願い

俺は見た
その巻物に
書かれた全てを



転生なんて…ない

最初から

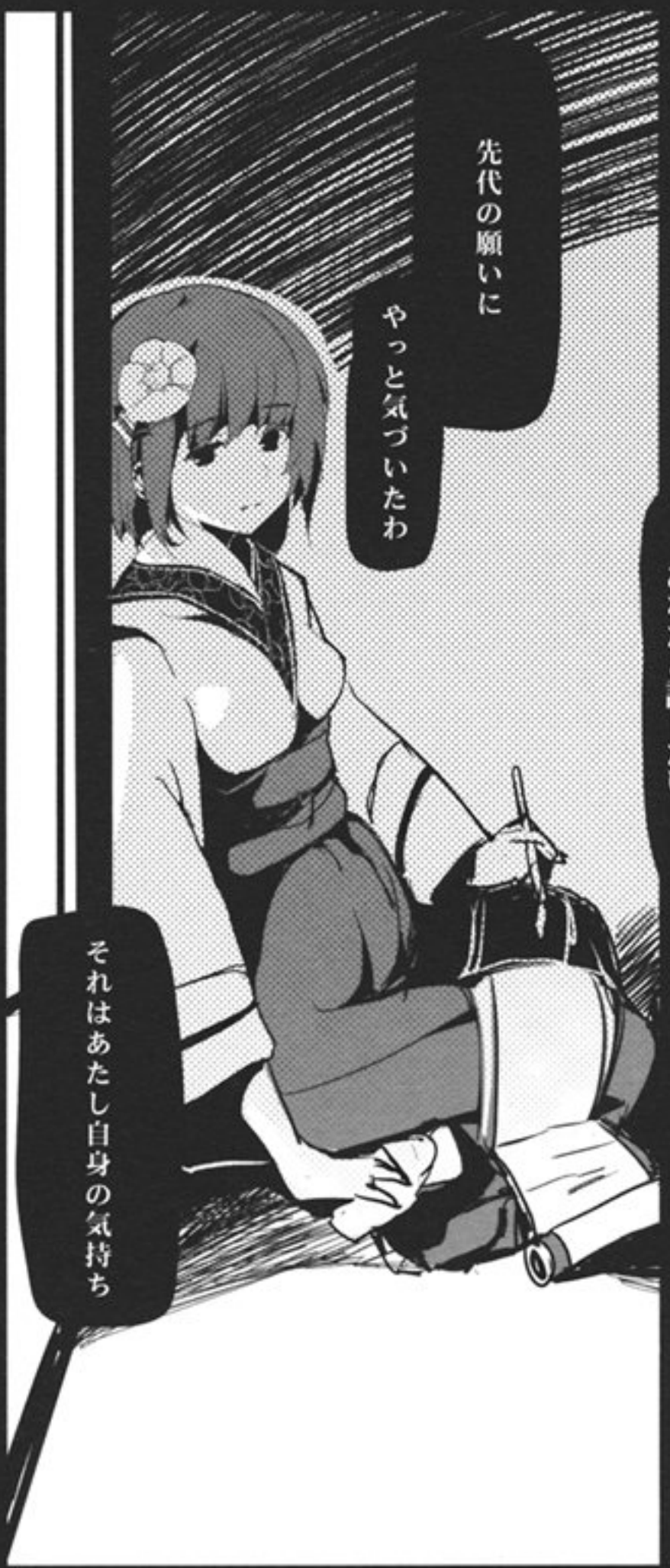
その巻物は

俺たちの
債務帳に過ぎない



せめてそれだけは

信じてください



先代の願いに

やっと気づいたわ

それはあたし自身の気持ち



ごめんなさい

たくさんのごことを
あなたと話したい

ごめんなさい



私の末裔よ
私の代わりに

あの人を愛してあげて



俺って…
とんでもないバカだな…

早く気づけば…
もうちょっと早く…



彼女たちに

責めないでやってくれ

だが、
お前にはお前の人生がある

あの女たちのように
なって欲しくない

でも…これは…
これじゃ、
悲しすぎるよ…

なんとしても…



私はあなたに
償わなければ…

ねえ

それじゃ

私は何のために

生まれてきたっていうの？

あいつらは

初めから
俺に借りなんて無かった



愛は貸し借りではない

なにより既に

俺は彼女たちの
一番大事なものを

受け取っている

バカ娘

この世は

愛情だけじゃないんだぞ

雪が降る

帰ろう

え？

どうして……


おぶってやろう

下駄じゃ埋もれる



おわり





後書き

お久しぶりです。カポです。
また実用性がない本出してしまっていて申し訳ございません。
今回はじっくりストーリーから考えて、Brautkleidの時よりも悩みました。
うん、頑張りました。
元々「自分らしく自分のために生きて行く」をテーマにして
「短命乙女」の物語をやりたかったんですが
いつのまにか世代間の宿命を超えて、
最後に倫理臭を漂わせるというラブ・ストーリーとなりました。
世代の宿願を背負わされ、愛情の債務に縛られる人生。
なのに最後は「自分の本心から相手を好きなる」。
そんな火山爆発みたいな恋慕の物語は描いているだけでも辛かったです。
そして、八代阿弥の設定は私の一番のお気に入りとなりました。
みなさまにも気に入って頂ければ幸いです。

ヒゲ親父を描くのがだんだん好きになってきた。微妙。

それではまた。

カポ



奥付

原作：上海アリス幻楽団

発行：魚骨工造

発行日：2012.12.30

発行人：カボ 魚干

連絡先：Fishboneworkshop@gmail.com

HP：www.fishboneworkshop.net

Pixiv：21202

印刷：ねこのしっぽ様

Special Thanks：うがや

18歳未満の購入、閲覧禁止

無断転載、複製、アップロード禁止